

もも・ネクタリン特報



No.

⑩

2019. 8. 1

J A 中野市営農センター

J A 中野市りんご・もも部会

梅雨期の曇天・降雨により灰星病が散見されていますので、被害果の除去・除袋後の薬剤散布により対応下さい。
また、今後は気温の上昇とともに害虫の多発が心配されますので、引き続き定期散布を徹底して下さい。

***川中島白桃、黄金桃、ファンタジア等、最終防除**
(有袋栽培で除袋間近な場合は、除袋後に散布する)

も も

第11回 定期散布

散布時期 8月中旬～下旬 (第10回目の定期散布から14日後)

・散布日の目安: 8月15日～21日

散布日 8月 日

散布量 リットル

散布薬剤 水 100ℓ当り

展着剤 (ハイテンパワー) 10ml

オーシャインフロアブル 50ml (収穫前日まで、3回以内)

アルバリン顆粒水溶剤 50g (収穫前日まで、3回以内)

散布量 10アール当り 600ℓ

混用順 水 ⇒ 展着剤 ⇒ オーシャインF ⇒ アルバリン顆粒水溶剤

対象病害虫 灰星病、黒星病、ホモブシス腐敗病、シンクイムシ類、モモハモグリガ、アブラムシ類

ネクタリン

第11回 定期散布

散布時期 8月中旬～下旬 (第10回目の定期散布から14日後)

・散布日の目安: 8月15日～21日

散布日 8月 日

散布量 リットル

散布薬剤 水 100ℓ当り

展着剤 (ハイテンパワー) 10ml

オーシャインフロアブル 50ml (収穫前日まで、3回以内)

アルバリン顆粒水溶剤 50g (収穫前日まで、3回以内)

散布量 10アール当り 600ℓ

混用順 水 ⇒ 展着剤 ⇒ オーシャインF ⇒ アルバリン顆粒水溶剤

対象病害虫 黒星病、灰星病、ホモブシス腐敗病、シンクイムシ類、モモハモグリガ、カメムシ類

注意事項 (もも・ネクタリン共通)

*ミカンキイロアザミウマ 発生園は、ディアナWDGの10,000倍(前日、2回)を加用する。

*ハダニ類 発生園は、ダニゲッターフロアブルの2,000倍(前日、1回)を加用する。

⇒ダニゲッターフロアブルは、開花期の水稻にかかると薬害を生じる恐れがあるので、飛散しないよう注意する。

次ページもご覧ください。

- 日照不足により、着色不足・果肉先熟の傾向ですので、収穫が遅れないよう注意して下さい。
- 明らかに地色が残る未熟果は、収穫しないで下さい。
- 成熟は昨年よりも5～7日程度遅れると予想されますが、除袋・反射マルチ・葉摘み等の管理作業は、早めに進めて下さい。
- 徒長枝が繁茂し、樹冠内が暗い園地が散見されます。日照不足が続いているため、特に糖度への影響が心配されます。徒長枝を整理し、樹冠内への日照量を確保して下さい。

1. 収穫開始予想

直前の気象条件により前後しますが、下表を参考に、果実の状況を見て収穫適期を判断して下さい。

＊猛暑が続くと成熟が遅れる傾向があり、曇天・低温が続くと成熟が早まる傾向があります。

＊樹勢が弱い場合は熟期が早まり、樹勢が強い場合は熟期が遅れます。

	品種名	南部地区	平岡地区
もも	なつっこ	8／10～	8／12～
	川中島白桃	8／23～	8／24～
	黄金桃	8／24～	8／26～
ネクタリン	晶光	8／3～	8／5～

2. 除袋目安

＊収穫予想の14日前頃に果実の地色の抜け具合を確認し、除袋をすすめて下さい。

品種	目安
なつっこ	早急に
川中島白桃、黄金桃	8／10～14頃

3. 新梢管理について

樹冠内部や主枝・亜主枝の背面から発生した旺盛な徒長枝は、成葉4～5枚残して摘芯する。

樹勢が弱い樹は過度に摘芯するとさらに樹勢低下を招くので、新梢を切らない。

4. 支柱立て

支柱立て・・・果実肥大が進んでいます。枝折れが散見されるため、再度、支柱立てを見直して下さい。

5. 反射マルチについて

高温による果肉障害（軟化）対策として、白色マルチ・タイベックを使用して下さい

★白色マルチ「タイベック」を使用すると、着色向上促進だけでなく、成熟の極端な進みを回避できます。

【使用時期】 収穫7日前～10日前

6. 川中島白桃など、結実が不足する樹の傾向について

本年、川中島白桃など花粉の無い品種を中心に結実不足が散見されております。

極端に着果量が少ない場合、極大玉になりやすく十分な着色を得る前に地色が抜けて収穫期を迎える傾向があり、軟化も早まる可能性があります。果実の状況をよく確認し、除袋・着色管理・収穫等の作業が遅れないよう努めて下さい。